

石川県での原木シイタケ栽培における キノコバエ類の被害について

八島武志

I はじめに

本県の原木生しいたけ栽培においては、奥能登原木しいたけ活性化協議会が、傘の大きさ8cm以上、肉厚3cm以上、巻き込み1cm以上の物を特秀品とし、「のとてまり」のブランド名で専用の化粧箱に入れ出荷しているが、昨年から生産者のほだ場にて虫害が確認されており問題となっている。

原木シイタケを加害するキノコバエ類については複数知られており、九州、千葉県、静岡県で被害報告や発生事例が挙げられている。

本研究では、キノコバエ類による被害を軽減するために捕虫板の効果を確認する。

II 方法

2019年12月にシイタケ栽培ハウスの内部に、市販の捕虫板(10cm×25cm、黄色及び青色)、ハエ取りリボンを設置し、1ヶ月後に捕獲されたキノコバエ類の数を計測、比較した。

ハウス内を間口3、奥行4の12区分に分け、3種類の捕虫板を位置を変えながら4枚ずつ設置した。設置箇所は合掌に組んだホダ木の間とした(図-1)。



図-1 捕虫板およびハエ取りリボン設置状況
 左 捕虫板、右 ハエ取りリボン

III 結果と考察

各捕虫板ごとの捕獲数を図-2および図-3に示す。黄色と青色の比較では黄色の方がやや多い傾向がみられた。ハエ取りリボンは捕虫板と比較して非常に捕獲数が大きかった。以上のことから、色の違いによる誘引効果はないと考えられる。

入口側で捕獲数が多いのは、調査期間中ずっと扉を開放していたため、ここから侵入してきたものと考えられる。側面も開け放っていたが入口側ほど捕獲数が多くないのは遮光ネットを張っていたためと

考えられる。

入口

リボン	黄色	青色
81	11	3
青色	リボン	黄色
6	15	3
黄色	青色	リボン
6	0	30
リボン	黄色	青色
50	3	1

入口

図-2 粘着板ごとの捕獲数

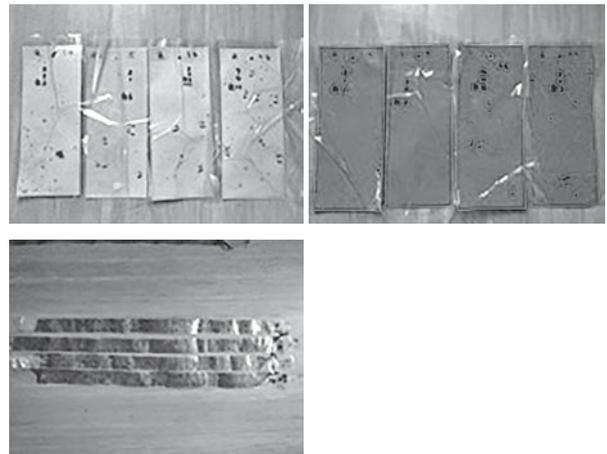


図-3 試験後の虫捕獲状況

左上 黄色、右上 青色、左下 ハエ取りリボン

IV 今後の問題点

他県での研究事例のとおりキノコバエ類は粘着板の色による差はみられないことが今回の調査でも確認された。一方で安価なハエ取りリボンの捕獲数が多かったことから粘着力の差が捕獲数の差になったと考えられる。いずれにせよキノコバエ類をハウスに侵入させないことが肝要であり、開口部に目合の細かなネットを張る、周辺でキノコバエ類が繁殖しないよう環境を整えるといった抜本的な対策とあわせるべきであると考えられる。

引用文献

- 千葉県・千葉県農林水産技術会議（2019）原木シイタケ栽培におけるフタモントンボキノコバエの防除方法.
- 加藤 徹（2016）原木シイタケの新たな害虫 需要の高まる秋から冬に大きな被害を及ぼす「フタモントンボキノコバエ」. KEIZAIREN 情報 1217：9-10
- 村上康明（2007）原木シイタケを加害するキノコバエについて. 九州森林研究 60：13-17
- 末吉昌宏（2018）キノコバエ類と森林植生. 九州の森と林業 123：1-3